

# 地域振興県土警察常任委員会資料

(平成30年8月21日)

- 1 平成30年7月豪雨の対応状況等について(県土整備部関連) 【技術企画課】……1ページ
- 2 鳥取県国土強靱化地域計画の中間評価について 【技術企画課】……6ページ
- 3 近未来技術等社会実装事業(内閣府)の選定について～道路インフラ維持管理システムを  
拡張した安全安心な地域づくり～ 【技術企画課】……7ページ
- 4 「高速道路のミッシングリンクを解消し日本の再生を実現する10県知事会議」の国への要望  
について 【道路企画課】……11ページ
- 5 清水川浸水被害への対応状況について 【河川課】……12ページ
- 6 平成30年7月豪雨を教訓とした安全・避難対策のあり方研究会の開催について  
【河川課】……13ページ
- 7 第9回中海会議の開催結果について 【河川課】……別冊
- 8 鳥取砂丘コナン空港グランドオープンについて 【空港港湾課】……15ページ

県 土 整 備 部

平成30年7月豪雨の対応状況等について（県土整備部関連）

平成30年8月21日  
技術企画課

1. 被害状況及び今後の対応

(1) 被害状況（8月21日時点）

○公共土木施設

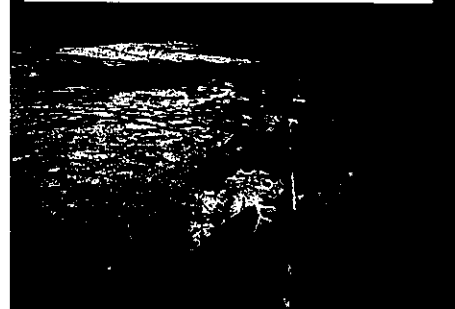
（単位：千円）

		県工事		市町工事		計	
		箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額
国交省 所管	河川	161	7,114,200	19	137,300	180	7,251,500
	砂防	75	985,400			75	985,400
	道路	52	2,033,400	44	615,800	96	2,649,200
	橋梁			1	60,000	1	60,000
	港湾	1	11,000			1	11,000
	公園			2	120,000	2	120,000
	小計	289	10,144,000	66	933,100	355	11,077,100
農水省 所管	治山	1	40,000			1	40,000
	小計	1	40,000			1	40,000
合計		290	10,184,000	66	933,100	356	11,117,100

国道373号（智頭町福原）護岸崩壊



八東川（八頭町用呂）護岸崩壊



【主な被災箇所】

- （河川） 八東川（八頭町用呂）護岸崩壊
- （砂防） 横瀬川（智頭町中原）護岸崩壊
- （道路） 国道373号（智頭町福原）護岸崩壊
- （港湾） 鳥取港（鳥取市賀露町地先・港町地先）泊地閉そく・航路埋そく
- （公園） 千代川（鳥取市円通寺・古市）グラウンド土砂流出
- （治山） 岩戸地区（鳥取市福部町岩戸）山腹崩壊

○その他（土砂災害）：17箇所

○道路の交通規制状況（国・市町村管理含む）

	国管理道路	県管理道路	市町村道	計
全面通行止め	0箇所	6箇所	5箇所	11箇所

○台風12号による被害：なし

(2) 復旧状況と今後の対応

ア 公共土木施設等被害からの復旧に係るもの

(ア) 道路交通規制（国・県管理分）

<復旧状況>

- 全面通行止め箇所については、できるだけ早期に片側交互通行を確保する方針で対応している。全面通行止めが35箇所が発生したが、国道373号（智頭町京橋交差点～駒帰IC）をはじめとする29箇所については、応急復旧工事等により全面通行止めを解除（下記(イ)参照）した。

<今後の対応>

○残る全面通行止め 6 箇所については抜本的な対策が必要であり、災害復旧工事での復旧を図る（いずれも住民生活に支障なし）。

菅沢日野線については、規制区間より奥部に集落があるが迂回路あり。それ以外については、規制区間より奥部に集落なし。

県道名	規制理由	規制区間	規制解除予定等
鳥取郡家線	斜面崩壊 土砂流出	八頭町池田	未定（災害復旧工事完了後に規制解除予定）
菅沢日野線	路肩陥没	日野町黒坂～久住	未定（災害復旧工事完了後に規制解除予定）
小河内加茂線	道路陥没	鳥取市佐治町津野	未定（災害復旧工事完了後に規制解除予定）
智頭勝田線	道路崩落	智頭町新田～右手峠	9月上旬に2m程度の幅員を確保する予定。 大型車両を含めた解除は未定（災害復旧工事完了後に規制解除予定）
津山智頭八東線	道路崩落	智頭町口宇波 ～物見峠（県境）	未定（災害復旧工事完了後に規制解除予定）
西宇塚那岐停車場線	路肩崩落	智頭町西宇塚 ～津山智頭八東線	未定（災害復旧工事完了後に規制解除予定）

○溪流からの土砂流出対策

溪流からの土砂流出により国道、県道が通行止めとなった箇所については災害関連緊急治山事業の採択に向けて林野庁協議が終了した。このうち、屋住地区、上萩山地区、赤波地区については、8月14日付で事業採択済みであり、残る曹源寺地区についても事業採択手続中である。今後、早期の対策工事着手を図る（専決予算活用）。必要な箇所については追加補正要求を行う。

(イ) 公共土木施設

緊急で対策が必要な箇所については、直ちに応急・復旧工事に着手した。

- ・着手済 35 箇所は、全面通行止めとなった箇所（例：国道 373 号：智頭町福原（大型土のう設置））や時期出水等への備えが必要となる箇所（専決予算活用）である。
- ・その他被災箇所については、早期に災害調査を完了し、9月3日からの災害査定とそれに続く復旧工事発注に向けて測量設計等を進めている。

<復旧状況>

応急復旧工事等により、全面通行止め解除等を図っている（上記（ア）参照）。

また、災害査定に向け、測量設計に着手した。引き続き、国、市町村等と連携を図りながら迅速な災害復旧に努めている。

<災害査定の手続き>

- ・国土交通省 水管理・国土保全局所管 9月3日、18日及び25日の週で調整中  
(河川・道路等、災害査定の大部分を占める)
- ・国土交通省 港湾局所管（港湾）、 8月9～10日に決定
- ・農林水産省所管（治山） 9月13～14日に決定

平成 30 年 7 月 20 日付で、災害査定の手続きについて、国土交通省が下表のとおり決定した。

	通常	今回
書面による査定上限額の引上げ	300万円未満/箇所	2,000万円以下/箇所（※）
現地で決定できる災害復旧事業費の金額の引上げ	4億円未満/箇所	8億円未満/箇所

※H28中部地震：1,500万円未満、H29台風18号：800万円以下

(ポイント)

- ・書面による査定（机上査定）とは、被災現地に向くことなく会議室等で書面等の資料のみで行う災害査定のこと。現地までの移動時間を要しないため、現地査定より災害査定の手続き短縮が可能となる。

- ・上限額引上げ前（通常）：全体数の1割程度  
⇒ 上限額引上げ後（今回）：全体数の7割程度 が机上査定で実施可能となる。
- ・現地で決定できる災害復旧事業費の金額の引上げについては、現時点で対象となる工事は確認されていない。

<工事实施までのスケジュール> ※査定後の10月以降、順次工事に着手する予定である。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
測量設計	■	■	■	■	■	■	■	■	■
災害査定（予定）	■	■	■	■	■	■	■	■	■
工事発注	■	■	■	■	■	■	■	■	■
工事实施	■	■	■	■	■	■	■	■	■

※被災規模が大きい箇所及び用地買収等が必要な箇所は4月以降も工事を実施する可能性あり。

#### (ウ) 土砂災害

災害関連緊急治山事業、単県斜面崩壊復旧事業等の執行に向けて手続きを進め、早期の対策工事着手を図っている。

※課題：極力個人負担を伴わない事業を検討中だが、事業によっては地元合意を要するため調整が必要である。

<復旧状況>

応急対策について、人家や道路に被害の可能性のある箇所（土砂災害発生箇所17箇所のうち11箇所）については、次期出水による被害の拡大を防止するため、大型土のうやブルーシートを設置した。

その他（6箇所：現場の安全を確認済）について経過観察する。

恒久対策について、関係市町と調整が完了した箇所については応急対策に引き続き着手する。その他の箇所についても調整中であり、早期事業化を図る（専決予算活用）とともに追加補正要求も行う。

箇所名	被害状況	対応状況と今後の予定
1 屋住地区（鳥取市用瀬町屋住）	土砂流出	災害関連緊急治山事業で対応予定（事業採択済）
2 上萩山地区（日南町上萩山）	土砂流出	災害関連緊急治山事業で対応予定（事業採択済）
3 赤波地区（鳥取市用瀬町赤波）	土砂流出	災害関連緊急治山事業で対応予定（事業採択済）
4 祇園地区（米子市祇園）	法面崩壊	採択要件に合致しないため、自己対応
5 下谷地区（三朝町下谷）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応中→林地崩壊対策事業への振替を検討中
6 青木地区（米子市青木）	法面崩壊	単県急傾斜地崩壊対策事業で対応中
7 境地区（南部町境）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応中→林地崩壊対策事業への振替を検討中
8 吉野地区（鳥取市国府町吉野）	法面崩壊	林地崩壊対策事業での対応を検討中
9 三吉地区（日南町三吉）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
10 吉川地区（若桜町吉川）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
11 笠木地区（日南町）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
12 中石見1地区（日南町）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
13 中石見2地区（日南町）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
14 神福地区（日南町）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
15 福塚地区（日南町）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
16 新屋地区（日南町）	法面崩壊	単県斜面崩壊復旧事業で対応予定
17 曹源寺地区（三朝町曹源寺）	法面崩壊	災害関連緊急治山事業で対応予定

#### (エ) 市瀬関係

<復旧状況>

全施設の土砂撤去完了により、土砂溜めポケットを確保した（7/14 専決予算活用）。

<恒久対策>

国土交通省が整備中のロックシェッドが年内に完成する予定である。

(オ) 港湾・漁港関係（鳥取港千代航路埋そく（堆砂）、西浜泊地閉そく（漂着物））（専決予算活用）

<復旧状況>

航路については7月26日幅130m、水深8.2m（7千t級貨物航行可）を復旧した。引き続き、1万t貨物船が航行可能となる水深10mの復旧に向けて浚渫中である。漂着物（流木等）については7月9日までに水面から撤去完了した。

<今後の対応>

航路の本復旧工事（幅170m、水深10m）は、9月着工に向けて発注準備中であり、漂着物（流木等）は、査定が完了したことから、処分に向けて発注準備中である。

路線名等	被害状況	対応状況と今後の予定
1 鳥取港（鳥取市港町地先）	土砂異常堆積による航路埋そく	7月26日に水深8.2m(7千t級)を復旧。災害復旧事業で対応予定（7月専決）
2 鳥取港（鳥取市賀露町地先）	漂着物(葦等)による泊地閉そく	漂着物撤去完了。災害復旧事業で対応予定（7月専決）

(カ) 海岸関係

海岸漂着物について、災害関連大規模漂着流木等処理対策事業（国庫補助事業）で処理する。なお、緊急に対策が必要な海水浴場等については、優先的に撤去を実施した。

<復旧状況>

全ての海水浴場において、7月13日に漂着物を撤去した（皆生海岸など）。その他海岸については、順次撤去作業に着手しており、早期撤去完了を目指す（専決予算活用）。

<今後の対応>

上記補助事業による早期の撤去・処理を目指す。

路線名等	被害状況	対応状況と今後の予定
県管理海岸（建設海岸、港湾海岸、漁港海岸）	漂着物（葦・ゴミ等）	災害関連緊急大規模漂着流木等処理対策事業で対応予定。7/20 国交省・財務省事前協議済

(キ) 河川関係

○河床掘削（河道埋そく）

<復旧状況>

河床掘削工事の発注準備中（8月上旬から順次入札 専決予算活用）。

<今後の対応>

発注準備を進め早期の土砂撤去を行い、台風期前までの安全確保を目指す。

○清水川排水機場緊急対策事業（浸水被害対策）

<復旧状況>

（機器設備更新等）

今回の事故部分である冷却水センサーの交換作業を実施した（専決予算活用）。センサー交換は7月31日、制御盤修繕は7月25日、仮設給水タンクの増設等は7月26日に完了した。

県管理排水機場（5箇所）の緊急点検を7月18日から実施し、7月28日に点検を完了した。

（浸水被害対応）

7月11日に対象の自治会に対し被害状況のアンケート調査を実施し、現在回答を回収している。

<今後の対応>

浸水被害については、鳥取市と協力して、速やかに地元説明会等を開催した上で、必要な対応を図っていく。

- ・8月1日に吉成南町地区住民、8月7日に美保南地区住民に対して地元説明会を開催した。
- ・農業被害者への説明会は別途調整中である。

## 2. 県外及び県内市町村等への支援（県土整備部関係）

### （1）県外への支援

#### 【岡山県】

- 県建設業協会が岡山県倉敷市に土のう袋約9万袋を支援した（7/13）。
- 災害復旧事業実施に係る支援として県建設技術センターが岡山県建設技術センターに技師1名を派遣することを調整している（9/18～31/3/15 ※最長6ヶ月）。
- 災害復旧事業実施に係る支援として土木技師1名を派遣した（8/6～11/末）。

#### 【広島県】

- 全国知事会の要請により県保有散水車2台とドライバー4名を三原市へ派遣した（7/13～7/15）。

### （2）県内市町村への支援

- 智頭町と若桜町にリエゾン派遣した（智頭町：5名（7/6～7/8）、若桜町：4名（7/6～7/7））。
- 県建設業協会が智頭町に土のう袋約3,800袋を支援した（7/13）。
- 県が八頭町、智頭町、日南町に土のう袋約5,000袋を支援した（7/7～10）。
- 県建設技術センターが県・市町村への災害復旧事業実施に係る支援を実施している。
- 県としても市町村への災害復旧事業実施に係る支援を継続して実施している。

### （3）県内県土整備事務所への人的支援

#### ○八頭県土

- リエゾン支援 : 14名（7/6～7/8）
- 交通誘導支援（通行止箇所） : 18名（7/8～7/12）
- 災害復旧事業実施に係る支援 : 5名（8/1～3/31）

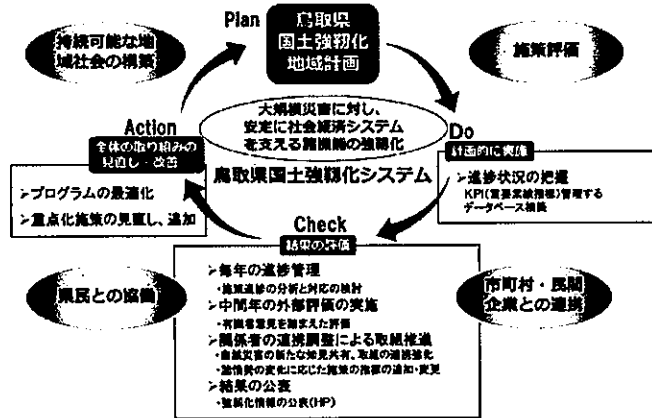
# 鳥取県国土強靱化地域計画の中間評価について

平成30年8月21日 技術企画課

- 国土強靱化基本法の施行及び国の基本計画の策定を受け、鳥取県ではH28年3月に「鳥取県国土強靱化地域計画」を策定しました。
- 当該地域計画は、概ね5年（H28-H32）を推進期間としており、本年度、外部有識者等の意見を踏まえて中間評価を行います。
- 中間評価では、個別施策毎の重要業績指標の進捗状況を評価するとともに、計画策定後に発生した鳥取県中部地震や平成29年豪雪災害、熊本地震や先般の平成30年7月豪雨等により明らかとなった課題を加え、より実効性のある計画に見直すこととしています。

## 1. 主な経緯

- ・H25.12月 国土強靱化基本法施行
- ・H26.6月 国土強靱化基本計画策定
- ・H28.3月 鳥取県国土強靱化地域計画策定
- ・H28.4月 熊本地震
- ・H28.8月 平成28年台風10号豪雨
- ・H28.10月 鳥取県中部地震
- ・H29.1月-2月 平成29年鳥取豪雪
- ・H29.7月 九州北部豪雨
- ・H30.2月 平成30年福井豪雪
- ・H30.6月 大阪北部地震
- ・H30.7月 平成30年7月豪雨



## 2. 中間評価の内容

### (1) 重要業績指標（KPI）の評価と見直し

- ・現計画には227項目のKPIが設定されており、進捗状況をABCDランクにより評価する。
- ・既に目標値を達成した指標及び進捗の遅れている指標の見直しを行う。
- ・現計画において客観的な数値目標となっていないKPIを数値等に見直す。

### (2) 新たな課題を踏まえた計画の見直し

- ・平成28年3月以降発生した自然災害や法改正等を踏まえて施策の追加や目標値の修正を行う。
- ・特に平成30年7月豪雨については別途開催される「安全・避難対策のあり方研究会」での議論を反映させることとする。

## 3. 検討体制

### (1) 外部有識者会議

学識経験者、行政、各分野の有識者10名により構成する「鳥取県国土強靱化推進評価会議」（下表／座長：鳥取大学 枡見理事・副学長）による意見徴収を行い評価及び計画見直しに反映させる。

分野	氏名	役職等	備考
行政	乾 秀樹	鳥取市危機管理局长（市長会）	
＃	渡邊 輝紀	日南町防災監（西部町村会）	
住宅・都市・環境	門脇 美鈴	鳥取県建築士会女性委員会副委員長	
保健医療・福祉	田中 響	鳥取短期大学教授	
エネルギー	鈴木 周一	中国電力㈱鳥取支社総務担当マネージャー	
産業・金融	増井 ひとみ	倉吉商工会議所女性会副会長	
情報通信	坪倉 善彦	NHK鳥取放送局副局長	
物流	前田 裕明	一般社団法人鳥取県トラック協会専務理事	
農業	八木 雅人	鳥取県農業協同組合中央会組織指導部統括部長	
国土保全・交通	枡見 吉晴	鳥取大学理事・副学長	座長

### (2) 庁内検討体制

関係部局による庁内ワーキング会議で検討を行う。

## 4. 第1回推進評価会議の概要（開催日7月27日）

### 【主な意見】

- ・住民への周知の手段を増やすだけでなく、住民が情報を受け取れたかどうかを指標とすべき。
- ・7月豪雨で避難指示が出たが、ほとんどの人が逃げない状況であった。いかに避難行動につなげるかが課題。
- ・KPIは行政側にとって施策の進捗を把握するために必要であるが、住民からの目線での評価も必要ではないか。

## 5. スケジュール（予定含む）

- ・7月27日 第1回推進評価会議（済）
- ・11月中旬 第2回推進評価会議（中間とりまとめ）
- ・12月～H31.1月 パブリックコメント
- ・H31.1月下旬 第3回推進評価会議（計画見直し案とりまとめ）
- ・2月中旬 計画改訂

# 近未来技術等社会実装事業（内閣府）の選定について

## ～道路インフラ維持管理システムを拡張した安全安心な地域づくり～

平成30年8月21日 技術企画課

平成28年度から鳥取大学と共同で構築している道路インフラの維持管理システムを活用して、河川海岸等インフラの維持管理への拡張、公共交通の利便性向上、地域コミュニティ防災、建設生産性の向上を図る技術開発と実装の提案が、内閣府所管「近未来技術等社会実装事業」の全国14事業のひとつとして選定されました。

今後、次年度からの技術開発と実装のため、関係省庁連絡会議において、各種補助金、関係交付金、特定措置の適用等が検討されるとともに、県、関係地方支分局、関係民間事業者で構成する地域実装協議会が設置され、関係省庁からの支援を受ける予定です。

- 1 事業名 近未来技術等社会実装事業
- 2 趣 旨 AI、IoT や自動運転等の最新の知見等を活用し、産業の生産性向上やインバウンド観光への対応、公共交通の維持・改善、住民の健康保持、子育て支援や未来を担う人材の育成等、近未来技術や戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)、革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)等の最新の成果等を活用した地方創生に関する提案を地方公共団体から募集し、優れた事業について関係府省庁が総合的に支援するもの
- 3 国全体の事業規模 200億円(2カ年分・国費ベース・1/2補助)(内閣府聞き取り)
- 4 事業期間 平成31～32年度(本年度から地域実装協議会の設置等の事業準備を予定)
- 5 選定された事業 本県提案を含む14事業(別添のとおり)
- 6 鳥取県の提案内容 インフラ情報・管理技術を活用した地域安全マネジメントの展開
  - 1)道路インフラ維持管理システムを河川砂防等に拡張
  - 2)GISを活用した自然災害時の避難判断行動の支援
  - 3)除雪車両GPSと準リアルタイム積雪分布監視システムを連携した除雪作業の最適化
  - 4)建設生産工程へのICT活用推進による生産性向上
  - 5)デマンドバス及びタクシー運行の効率化による公共交通サービスの向上
- 7 県の事業規模 全体事業費上限12億円(平成31年度当初予算において検討)
- 8 事業の推進体制 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)のシステム開発で共同作業を行ってきた、鳥取大学工学部及び(公財)鳥取県建設技術センターとの連携を拡張させ、提案した取組毎で関係部局が参画するプロジェクトチーム設置を予定
- 9 経 緯
  - (1)道路インフラの維持管理システム開発
    - ・H28年10月 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の採択  
(鳥取大学の維持管理システム開発提案に、県が共同開発者として参画)
    - ・H29年6月 路面振動探査開始(継続中)(鳥取県中部地震を考慮し中部総管内で実施)
    - ・H30年3月 セミエキスパート講習会(倉吉市社会福祉協議会)
    - ・H30年7～8月 江島大橋でSIP開発によるロボット点検技術の実装実験
    - ・H30年7月 セミエキスパートからの情報提供開始(中部地区の県職員OB)
    - ・H30年8月 維持管理システムの運用開始
  - (2)近未来技術等社会実装事業
    - ・H30年4月27日 事業の募集開始(募集期間:5/10～6/15)
    - ・H30年6月15日 事業提案書の提出(6/27書類審査通過)
    - ・H30年7月5日 内閣府での個別ヒアリング(内閣府、総務省、国土交通省)
    - ・H30年7月30日 近未来技術実装有識者会議(事業選定)
    - ・H30年8月8日 選定事業の公表(内閣府HP)





平成 30 年 8 月 8 日  
内閣府地方創生推進事務局

### 近未来技術等社会実装事業の選定について

現在、AI、IoTや自動運転等の近未来技術や科学技術研究の成果等、最新の知見等を活用し、産業の生産性向上や、公共交通の維持・改善等、様々な課題を解決し、地方創生に繋げていくことは極めて重要です。

近未来技術等を活用した地方創生に関する提案を地方公共団体から募集し、優れた事業について関係府省庁が総合的に支援することとしております。

本日、「近未来技術等社会実装事業」について、下記のとおり選定いたしましたのでお知らせします。

#### 記

近未来技術等社会実装事業：14 事業

#### 【担当・問合せ先】

内閣府 地方創生推進事務局

安田、小原（03-6206-6174）

- <添付資料 1 > 近未来技術等社会実装事業 選定事業一覧
- <添付資料 2 > 近未来技術等社会実装事業について
- <添付資料 3 > 近未来技術等社会実装事業 選定事業の概要
- <添付資料 4 > 近未来技術等社会実装事業の政府方針における位置付け

## 近未来技術等社会実装事業 選定事業一覧

No.	提案者	提案タイトル
1	北海道、岩見沢市、更別村	世界トップレベルの「スマート一次産業」の実現に向けた実証フィールド形成による地域創生
2	宮城県仙台市	防災・減災分野におけるドローン活用仙台モデル構築事業
3	茨城県、つくば市	高齢社会の課題を解決する近未来技術（Society5.0）社会
4	埼玉県川口市	先端技術体験がもたらす地域振興と人材育成および公共交通不便地域の解消
5	千葉県千葉市	幕張新都心の中核とした近未来技術等社会実装によるユニバーサル未来社会の実現
6	愛知県	「産業首都あいち」が生み出す近未来技術集積・社会実装プロジェクト
7	愛知県豊橋市	近未来技術等を活用した「AIケアシティ」形成事業
8	愛知県春日井市	高蔵寺ニューモビリティタウン構想事業
9	愛知県豊田市	様々な生活シーンに対応し、社会インフラと協調する、先進モビリティ活用事業
10	京都府亀岡市	亀岡アクティブライフに向けた近未来技術実装事業
11	大阪府、河内長野市	少子高齢化社会における自動運転技術を活用した新たな移動サービスの創出と健康寿命の延伸～社会保障費等の抑制による持続的なまちの発展をめざして～
12	兵庫県神戸市	地域に活力を与える地域交通IoTモデル構築事業・神戸市における自動運転技術を活用した住み継がれるまちの実現・
13	鳥取県	インフラ情報・管理技術を活用した地域安全マネジメントの展開
14	大分県	遠隔ロボットアバターを通じた世界最先端地方創生モデルの実現

※都道府県・市区町村コード順

# 提案タイトル インフラ情報・管理技術を活用した地域安全マネジメントの展開

提案者	事業分野
鳥取県	移動革命の実現、快適なインフラ・まちづくり、SIP等の活用

## 背景・課題

- ・ GISによるビッグデータの蓄積と活用を核とし、i-Constructionの深化、老朽化する社会基盤の機能確保、公共交通の利便性向上、地域コミュニティ防災を実現
- ・ 橋梁や水門、樋門等のインフラ老朽化が進んでおり、維持管理・更新費は建設投資の27%（平成27年）を占め、なお増加傾向
- ・ 積雪期の除雪作業において平成29年豪雪では智頭町で交通途絶が発生する等、自然災害に対するマンパワー不足が顕在化
- ・ 人口の希薄化に伴う、路線バスやタクシーの担い手減少による公共交通サービス低下が、定住環境に影響

## 2020年度までの事業内容

○事業：「SIP等の活用」による「快適なインフラ・まちづくり」

### 活用技術

### 事業概要

- ・ SIP開発の道路インフラ維持管理システムを河川海岸砂防インフラに拡張し、住民通報と補修状況のGIS搭載、IoTネットワークによる損傷検出、点検補修を担う人材育成等により、地域のインフラ機能確保
- ・ 鳥取県防災情報等の各種防災情報を一元化したGISシステム構築により、避難準備、避難行動を支援
- ・ 気象データと除雪作業の蓄積と分析による、除雪ルート及び機械配置等のオペレーションを最適化
- ・ ICT活用を推進するとともに、タブレット等のIoT配備、電子情報連係のプラットフォーム構築等により、建設生産体制を改善し、魅力ある地域産業へ転換

### インフラ等 データ管理 分析



インフラ維持管理



現場管理へのタブレット活用

○事業：「SIP等の活用」による「移動革命の実現」

### 活用技術

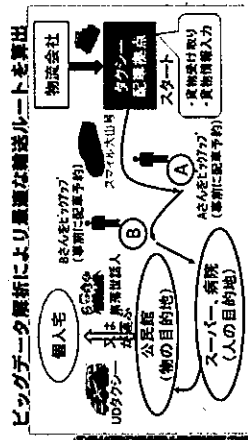
### 事業概要

- ・ SIPで開発したGISとデータベースを拡張したプラットフォームのうえに、公共交通サービスの運行・予約管理システムを構築するとともに、IoTネットワークを活用した配車計画の策定機能や運行情報サービスを提供

### インフラ等 データ管理 分析



デマンド型乗合タクシー



ビッグデータ解析により最適な輸送ルートを算出

# 「高速道路のミッシングリンクを解消し日本の再生を実現する10県知事会議」の国への要望について

平成30年8月21日  
道路企画課

西日本を中心に甚大な被害を及ぼした「平成30年7月豪雨」をはじめとして、近年全国で発生している地震や豪雨などの大規模災害時の高速道路の代替機能（リダンダンシー）を確保するため、高速道路のミッシングリンクの早期解消を図り、国土の安全を高めることが必要不可欠であり、10県知事会議により次のとおり要望活動を行いましたので、その概要を報告します。

## 1 要望の概要

日付：平成30年7月25日（水）  
 面談先：10:30～10:45 財務省主計局長 岡本薫明  
 11:00～11:15 自由民主党総務会長 竹下 亘  
 11:30～11:45 国土交通大臣政務官 高橋克法  
 11:50～12:15 記者会見（国土交通省記者会見室）  
 参加県：知事：平井知事、溝口知事  
 その他：山形県、福井県、和歌山県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県、宮崎県



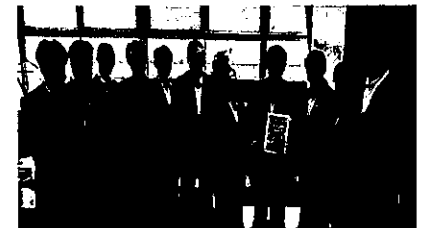
岡本財務省主計局長への要望

## 2 要望項目

- 一、発生が危惧されている大災害の発生に備えるためにも、ミッシングリンクの早期解消を図り、リダンダンシーを確保して我が国の防災基盤として整備する必要があることから、国の責任において高速道路ネットワークの早期形成を図ること。
- 一、ストック効果を最大限に発揮し、地方創生に向けた具体的な取り組みによる地域経済の再生を実現するためには、ミッシングリンクの解消は必要不可欠であり、未事業化区間の計画段階評価などの速やかな実施と早期事業化を図ること。
- 一、ミッシングリンクの解消が計画的かつ着実に進められるよう、平成31年度道路関係予算を拡大し、整備に必要な予算を確保すること。



竹下自由民主党総務会長への要望



高橋国土交通大臣政務官への要望

## 3 主な発言要旨

岡本 主計局長	高速道路のニーズが高いことは十分に意識している。一方で財政事情の制約があり、各地域の実情を踏まえながら国交省から出る予算要求の際に相談していきたい。
竹下 総務会長	高速道路ネットワークは国家の戦略としてやるべき話である。道路特定財源を無くしてしまった今、道路団体から要望のある新たな財源創設など、あらゆる知恵を絞って財源を確保し、その上でミッシングリンクを解消していきたい。
高橋 政務官	10県も含め全国にはミッシングリンクが解消されていない地域があり、しっかりやっていきたい。

## 4 今後の予定

参加県の高速道路整備率は、平成21年発足当時の約51%から、本年度当初で約72%と伸びており、引き続き活動を継続して行く。



記者会見の状況

# 清水川浸水被害への対応状況について

平成30年8月21日  
河川課

平成30年7月の豪雨及び清水川排水機場停止に伴い、鳥取市吉成南地区で発生した浸水被害への対応状況について報告します。

## 1 浸水被害が発生した経緯等

7/6	17:50	排水ポンプ運転開始。
7/7	3:40	排水ポンプが自動停止し、清水川の水 位が上昇。 (理由)冷却水タンクの警報装置(冷却 水センサー)が作動せず、タンク 内の冷却水が枯渇したため。
	5:00頃	吉成南地区で床下浸水被害13戸発生。
	6:15	排水ポンプが再稼働。 また、国交省排水ポンプ車2台が排水。
	12:40	浸水被害解消。



## 2 排水機場の管理状況

- ・排水ポンプ3基のうち2基は昭和61年、もう1基は平成6年に整備し、現在、長寿命化計画を策定し計画的に更新・修繕を実施している。
- ・操作は市に委託。市は(公財)鳥取市環境事業公社に委託。←河川法上、委託先は地方公共団体に限る。
- ・県が実施した専門業者による年点検(5/15~17)、市が実施した点検(7/4)で異常等は無かった。また、直前(7月5日午後~7月6日未明(約12時間))の運転でも異常等は無かった。

## 3 浸水被害への対応状況

### 1) 緊急点検及び機器設備更新等

- ・冷却水センサー等の交換(7/31済)、仮設の給水タンクの増設(7/26済)
- ・清水川排水機場全体の緊急点検(7/31済) ※その他の排水機場(4箇所)も実施済

### 2) 被害への対応

内容	状況
ヒアリング	7月8/9日 … 県・市で浸水被害のあった住宅を各戸訪問し被害状況を聞取。 7月11日 … 浸水被害に係るアンケート調査を実施。(7/30回収済)
吉成南地区説明会	<p>[日時] 8月1日(水)19時~、[出席者] 住民32名、[場所] 西吉成公民館</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謝罪を含め、浸水被害の原因及び対応策について説明した。これに対して、住民から「再発防止対策」「異常時の地元への連絡の徹底」等を求める意見が出された。</li> <li>・なお、説明会で出された意見や要望に対して文書で回答すること、浸水被害への対応(補償)については戸別に協議することを了承された。</li> </ul> <p>[出席者の主な意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排水ポンプが3台一度に停止するのは前代未聞。二度と起こらないように。</li> <li>・冷却水の給水管の「径拡大」や「複数の経路確保」等の補強が必要である。</li> <li>・定期点検の頻度はどうだったか。定期点検の点検簿の開示を求める。</li> <li>・以前24時間以上の連続運転があった。冷却水が不足していたのではないか。</li> <li>・現状の排水機場の能力では足りない。能力を上げて欲しい。</li> <li>・当日、排水ポンプが停止した際に地元へ連絡が無かった。異常時に公民館の待機者への連絡の徹底を求める。</li> </ul>
美保南地区説明会	<p>[日時] 8月7日(火)19時~、[出席者] 住民41名、[場所] 美保南公民館</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水被害の原因及び対応策について説明した。これに対して、住民から「再発防止対策」「異常時の地元への連絡の徹底」等を求める意見が出された。</li> </ul>

## 4 今後の予定

家屋や農作物の浸水被害については、引き続き市と協力して、必要な対応を行っていく。

## 平成30年7月豪雨を教訓とした安全・避難対策のあり方研究会の開催について

平成30年8月21日  
危機管理政策課  
河川課

平成30年7月豪雨を教訓として、安全・避難対策について鳥取県らしい支えあいの取り組みなども念頭に置き、その在り方について検討を開始しましたので報告します。

### 1. 研究会の概要

#### (1) 目的

平成30年7月豪雨では、中四国地方を中心に多数の死傷者、土砂災害、河川氾濫が発生し、住宅、公共土木施設及び鉄道等に甚大な被害をもたらした。

鳥取県内でも、大雨特別警報が初めて発表され、公共土木施設、農林施設等に多大な被害が発生したが、広島県、岡山県、愛媛県のような記録的な甚大な被害が発生する危険性が差し迫っていたことに鑑みて、県内外の教訓をしっかりと確認し、安全・避難対策の見直し、改善に取り組み、県民の安全、安心の向上につなげることが、出水期にある現在の喫緊の課題である。

このため、有識者、住民代表、市町村等と意見を交えて、今災害及び現状の安全・避難対策について検証し、人命を確実に守る安全・避難対策のあり方を整理し、既存計画（地域防災計画、河川洪水に係る減災対策協議会での行動計画、ダム操作規則等）を必要に応じて修正していく。

#### (2) 議論を予定している主な項目

- ① 避難情報等の伝達について（行政主体の課題）
  - ・避難情報発令のタイミング、発令基準、運用は適切か。
  - ・気象情報、河川情報、避難情報の伝達方法は適切か、住民に理解されているか。
  - ・高齢者や障がいのある方にも避難情報等が伝達でき、理解されているか。
- ② 早期避難のための体制づくり（住民主体の課題）
  - ・ハザードマップの住民への周知、浸透はどうか。
  - ・避難場所、避難経路、避難方法等は住民に浸透しているか。
  - ・避難受け入れ体制（避難所の開設、資機材の整備等）は整っているか。
  - ・支え愛マップづくり及び避難訓練は進んでいるか。
  - ・要配慮者利用施設の避難計画、体制は整っているか。
- ③ ダム放流と避難体制
  - ・ダムによる治水対策のあり方
  - ・避難対策との連携

### 2. 第1回研究会の概要

(1) 日時 8月10日 14時～16時10分 鳥取県災害対策本部室

#### (2) 主な意見

- ① 住民に避難行動を取ってもらうための情報の出し方
  - ・避難情報、気象情報、水位情報等の住民への周知不足。
  - ・危険性がイメージできる情報提供（映像（例：橋床に濁水が迫る映像）、首長の声、切迫感）が必要ではないか。
  - ・防災行政無線だけでは、豪雨時や夜間は情報が届きがたい。
  - ・避難指示のエリアをもう少し絞って出した方が、効果的ではないか。
- ② 避難情報を住民が正しく理解しているか
  - ・短時間の豪雨を想定して行政は避難準備、避難勧告を早めに出すようになっているが、避難指示が出てから避難すればよいと取り違えている住民も多く、その結果このたびの豪雨では避難が間に合わない事例が多数生じたのではないか。

- ・最大浸水深が二階まで達するエリアもあるので、垂直避難はあくまで例外であり水平避難が基本ではないか。(特に要配慮者のように避難に時間が必要な人ほど重要)

③ 住民の日頃の心構え、防災意識の醸成

- ・支え愛マップづくりに代表される自助・共助の取り組みが重要。
- ・行政からの防災情報に地域防災力を加え被害ゼロとなることを目指すことが必要ではないか。
- ・行政が出す避難情報について空振りを住民が許容する機運の醸成が必要。

④ その他

- ・避難所の環境が不十分なため高齢や障がい者を理由に避難しない方もおられた。
- ・避難所環境の向上が避難率の向上につながるのではないか。

3. 今後のスケジュール (予定)

- 第1回 8月10日 今災害及び現状の安全・避難対策について意見交換。  
 第2回 9月 第1回の意見を整理し、課題に対する今後の方向性を議論。  
 第3回 年内 とりまとめ

4. 研究会委員

区分	所属・職名・氏名
有識者	鳥取大学理事 裕見吉晴氏 ※座長
	鳥取大学大学院工学研究科准教授 梶川勇樹氏
住民代表	倉吉市生田自治公民館館長 難波誠氏
	倉吉市国府自治公民館館長 小谷隆一氏
	鳥取市犬正地区自主防災会会長 山岡俊朗氏
水防団	八頭町水防団副団長 徳田秀行氏
要配慮者 利用施設	(社福) 萌生会グループホームなごみ(伯耆町) ホーム長 頼田悦子氏
	(社福) あすなろ会特別養護老人ホーム河原あすなろ(鳥取市) 施設長 幸本一章氏
市町村	19市町村防災担当課
国交省	3事務所
気象台	防災管理官
鳥取県	危機管理局長、県土整備部長、福祉保健部長、企業局長

# 鳥取砂丘コナン空港グランドオープンについて

平成30年8月21日  
空港港湾課

- 平成30年7月28日に鳥取砂丘コナン空港がグランドオープンし、鳥取空港、鳥取港両港合わせて10,900人の一般来場者で賑わいました。
  - ・鳥取空港は、3月の空の駅フェスタ(2,500人)の約2倍の5,600人、マリンピア賀露には5,300人が来場されました(空の駅フェスタと同日開催の米と肉フェアの来場者数は不明。)
  - ・鳥取空港の7月28日から8月15日の19日間の一般来訪者数は、延べ67,500人となりました。
- ※一般来訪者：空港ビル5カ所の出入り口の入場者カウンターによる来場者数から、航空機利用者、空港スタッフによるカウント数を差し引いた数値。
- このグランドオープンをキックオフとして、空港やテナントのサービスの充実、多様なイベントの開催、今後オープンする鳥取砂丘ビジターセンターとの連携など、継続した取組により空の駅化・ツインポート化を促進します。

## 1. グランドオープンの概要

### 【記念式典】

- (1)日時：7月28日(土)
- (2)出席者：国会議員、県議会議員、市町長・議会議員、懇話会、地元自治会、経済観光団体、JAXA 青山先生関係(御両親・兄、小学館など)
- (3)内容：来賓祝辞  
(除幕1)喫茶ポアロ(安室フィギュア)  
(除幕2)シンボルオブジェ



### 【記念イベント】 別添のとおり

## 2. 来場者アンケート結果(速報)

当日288名(空港132名、鳥取港156名)に聞き取りアンケートを行い、とりまとめ中です。

### ●来訪目的

- 鳥取砂丘コナン空港
  - ・「イベントを楽しむ」…約40%
  - ・「子供と遊ぶ」…約15%
  - ・「おいしいものを食べる」…約5%
  - ※イベントの内容：空港見学ツアー、航空教室、記念式典(コナン装飾除幕)など
- ・「飛行機を見る」…約20%
- ・「コナンを満喫する」…約15%
- ・「その他」…約5%

### ●頂いた主な意見

- ツインポート
  - ・連絡道路の開通により1つのエリア感がある。
  - ・様々なイベント、スタンプラリーやワークショップなど家族で楽しめる。
- 鳥取砂丘コナン空港
  - ・店舗数が多くなり、食事や買物を楽しめた。
  - ・オブジェの増設など、コナンに関するコーナーが充実し、とても楽しめた。
- 改善点等
  - ・休日における両港間のシャトルバスがあった方が良い。
  - ・親子で楽しめるスポットやイベントが欲しい。
  - ・展望デッキに出たいが、車いす移動なので出られない。改善すべきである。

## 3. 今後の展開

今回実施した来場者アンケートや関係者(テナント、航空関係者)からの聞き取り結果の分析、ツインポート懇談会での意見聞き取りなどを行い、鳥取空港ビル(株)と連携して空港機能の改善、イベントの開催など継続した取組により空の駅化・ツインポート化を促進します。

また、現在平成35年度末の一般来場者数の目標値を12万人としており、今後の状況を分析し見直す予定です。

### ○継続事業

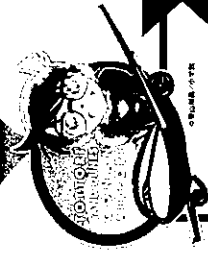
- ①ANA グランドオープン記念旅行商品造成(募集：グランドオープン前後、旅行期間：9月)
- ②ツインポート周遊キャンペーン(グランドオープン～12月末)
  - ・マリンピア賀露、鳥取空港の両方で買物や食事をした方に抽選で県特産品をプレゼント
- ③青山剛昌ふるさと館周遊キャンペーン(グランドオープン～8月末)
  - ・鳥取空港と青山剛昌ふるさと館の両方のコナン探偵社での商品購入者を対象に、限定ノベルティーをプレゼント
- ③シェアサイクルの運用実験を開始(グランドオープン～11月末)

### ○直近のイベント

- ・8月4日 空港滑走路早朝マラソン 主催：鳥取空港ビル(株) 参加者150人
- ・8月18日 星空観察会(実証実験) 主催：鳥取空港ビル(株)、空の駅オヤジの会  
※今後の空港制限区域内での夜間イベントについて実証的に実施  
喫茶ポアロ完成記念セレモニー(声優：古谷徹、小山力也特別出演)
- ・9月23日 空の日イベント空港フェスタ







# 鳥取砂丘コナシオン空港・マリンスピア賀露」で遊びつくそう!!

## 空の駅フェスタ

### 全便飛行機

ANA 全便飛行機

ANA 全便飛行機

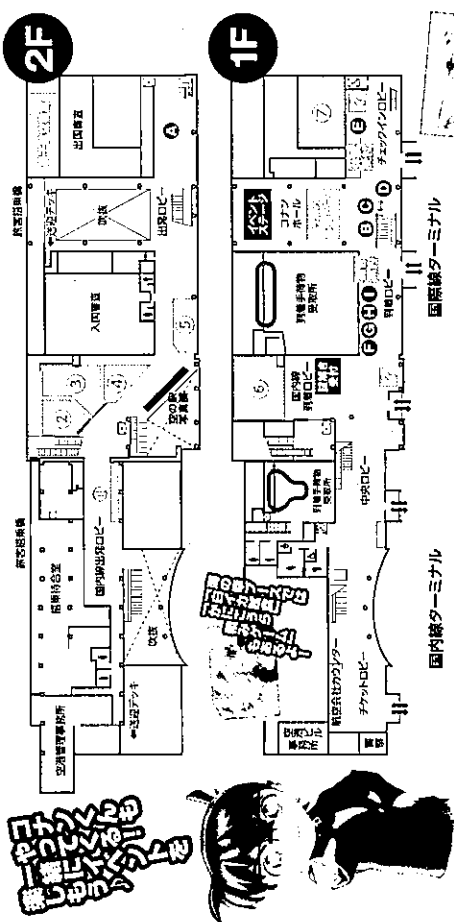
ANA 全便飛行機

### ホスロ

コナシオン

コナシオン

コナシオン



### 国内線ターミナル

国内線ターミナル

国内線ターミナル

### 国際線ターミナル

国際線ターミナル

国際線ターミナル

# 見物食べ比べ体験しよう!

## 食のみやこ鳥取県フェスタ

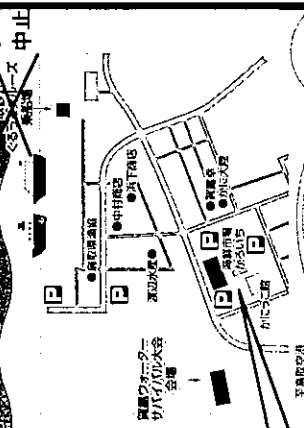
### 食のみやこ鳥取県 夕日夕屋台村 In マリンピア賀露

マリンスピア賀露の空やこ鳥取県の食文化を堪能できるイベントです。鳥取県産の新鮮な食材を使用した料理や、鳥取県産の酒やスイーツなど、鳥取県産の食文化を堪能できるイベントです。

- 鳥取からあげ こてつ家 (鳥取県からあげ)
- 海鮮料理 さと (鳥取県産の新鮮な魚介類を使用した料理)
- ロイヤルコーヒー (鳥取県産のコーヒーを使用したスイーツ)
- 味境のお宿 山田屋 (鳥取県産の食材を使用した料理)
- かるぼんや (鳥取県産の食材を使用した料理)
- おげもち本舗 (鳥取県産の食材を使用したスイーツ)
- 鳥取地産地消生産者協議会 (鳥取県産の食材を使用した料理)
- 備前キキアームキッチン (鳥取県産の食材を使用した料理)
- キッチンカリアブレランタン (鳥取県産の食材を使用した料理)
- おらぼや (鳥取県産の食材を使用した料理)
- 食の箱 コミュニティ広場 (鳥取県産の食材を使用した料理)
- ルートマンテンぼん葉子加工所 (鳥取県産の食材を使用した料理)
- ベベネーロ イタリヤ館 (鳥取県産の食材を使用した料理)
- ピストロ・フアイパン (鳥取県産の食材を使用した料理)

### 食の鳥取県

- CAZADOR(カザドル) (鳥取県産の食材を使用した料理)
- 大山恵みの里公社 (鳥取県産の食材を使用した料理)



### Happy Ma SMILE FESTA

Happy Ma SMILE FESTA

Happy Ma SMILE FESTA

### 夕日夕屋台村

夕日夕屋台村

夕日夕屋台村